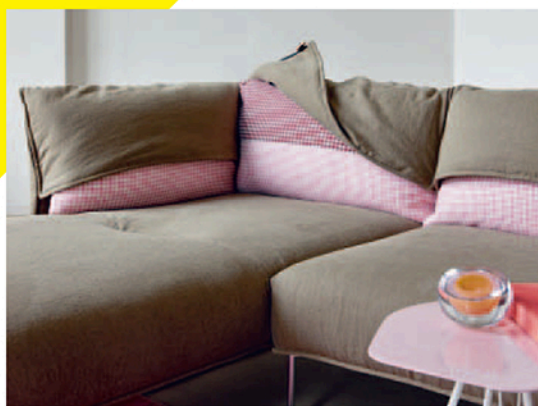




カバーの下もインテリアアクセント

ソファ『Undercover』
Zanotta／Anna von Schewen
ザノッタ／アンナ・フォン・シュヴェイン

ジッパー式のカバーリングの下から、ソファのクッションがちら見え。なるほど、これはありそうでなかったアイディアだ。色の組み合わせを楽しみたい。
www.zanotta.it



リビングボードがデスクに？

システム収納『Pass-Word』
Moltini&C／Dante Bonuccelli
モルティーニ／ダンテ・ボヌッチェリ

棚板と扉を10mmという極薄のパネルでつくったリビングボード。小型化する最新のマルチメディアを納め、それ自体がデスクやデバイスステーションになる多機能型システム収納。
<http://molteni.it/>



オットマンとはもう呼べない

オットマン『MAGI』
FLEXFORM／ANTONIO CHITTERIO
フレックスフォルム／アントニオ・チッターリオ

どの方向からも座れる。座るだけでなくベッドにもなる。オットマン(脚乗せ用椅子)とは便宜上の呼び名で、多様に使える新種の家具が登場している。この新作はそんな象徴的なモデル。
www.flexform.jp



テーブルはより多目的に

マルチテーブル『Analog』
FRITZ HANSEN／Jaime Hayon
フリッツハンセン／ハイメ・アジョン

丸でも四角でも楕円でもない、そんな新しい形を生み出したハイメ・アジョン。6人以上が囲めるという究極の、コミュニケーション・テーブル『アナログ』が登場した。
www.fritzhanzen.com



NEW IDEAS FOR YOUR LIFE in MILANO 2014

#1

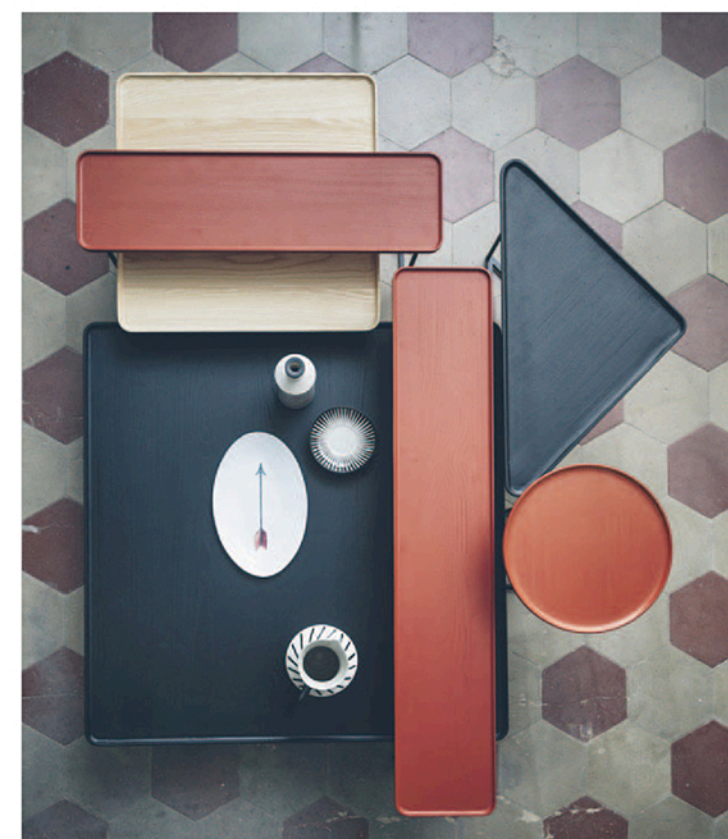
NEW FURNITURE
暮らしとともに進化する家具

人の集まり方、過ごし方。世界的に暮らしには大きな変化が起こっています。そんなライフスタイルを敏感にキャッチした新発想の家具を新作からピックアップしました。

多様な色と形をミックス

サイドテーブル『TOREI』
Cassina／Luca Nichetto
カッシーナ／ルカ・ニケット

2年前に発表されたサイドテーブルに、赤や大理石の天板が加わった。今年のミラノで大流行の素材とサイズ違いの小テーブルを複数並べるスタイル(→41ページも参照)が実現できる。
<http://www.cassina-ixc.jp/>



マテリアルの存在感が鍵

ダイニングテーブル『Brick』
GERVASONI／Paola Navone
ジェルバゾーニ／パオラ・ナヴォーネ

テーブルトップに白系の大大理石。これも多くのブランドが提案していたトレンドマテリアル。ジェルバゾーニでは、この足にむっちりとした金属の脚をつけてしまった。妖艶！
<http://gervasoni.jp>

三和土

昔の日本家屋でよく見かけたスペース“土間”は、ほとんど三和土で出来ていました。三和土は多雨・多湿な気象条件のわが国ならではのアイデアから生まれたものです。雨の日の外出から帰宅した際に、土間で外套などを脱ぎ、濡れたものを家の中に入れない機能を素材に持たせていました。昔は赤土や砂利など3種類の土を混ぜて作ったことでそう呼ばれています。

日本の住まい

欄間・三和土・障子・打ち水・畳・縁側

電灯や扇風機さえなかった時代、日本の住環境には四季の生活を心地よくするためのさまざまな工夫がありました。夏のじめじめした暑さをしのぐ工夫、冬を温かく過ごす工夫、外の灯りを取り入れる工夫など……。そんな日本の伝統的な住まいに凝らされた工夫と習慣を見ていきます。

Text=ロロ編集部 LORO Magazine

欄間

天井と鴨居の間に設けられたアート、欄間。装飾的な意味だけではなく、通風や採光のための機能を果たしています。昔から日本建築は「風通しをもって良しとする」という考え方でした。多雨・多湿なこの国の気候風土に合った住まいの考え方で、欄間もそうした思想から生まれたものです。機能だけではなく、意匠にも優れたデザインなんて粋ですね。

Keyword▶ 団らん

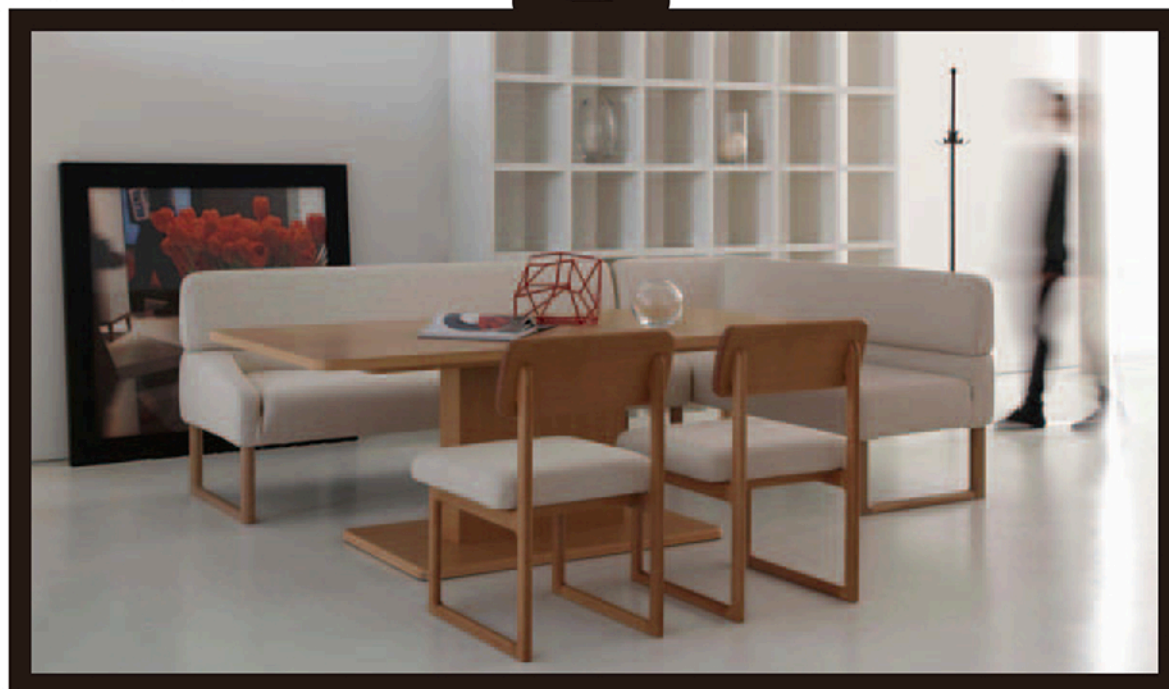


arflex
[アルフレックス]

MERCADO (メルカド) 価格79万8120円～(※画像の3ユニット合計。クッションは除く)

「つながる」をテーマにデザインされているというだけあり、アームがなく、組み合わせも自由で、どこからでもソファに集うことができる。また、床に座るような、あるいは寝ころぶような感覚が得られるので、家族や仲間との団らんのひとときに活用したい。画像の3ユニットW2700×D2310/1010×H710×SH365mm。
©アルフレックスジャパン

Keyword▶ 有効性



formax
[フォルマックス]

LAXTON (ラクストン) 価格3P右肘ソファ16万8000円～、2P左肘カウチソファ16万1000円～、アームレスチェア6万7000円、コートランドダイニングテーブル30万6000円

ダイニングセットとソファセットを別々に揃えるという考え方を見なおし、スペースの有効活用、掃除のしやすさ、女性でも無理のない座面の高さなど、使い勝手を突き詰めたシリーズ。3P右肘ソファW1800×D630×H800×SH430mm、2P左肘カウチソファW630×D1530×H800×SH430mm、アームレスチェアW490×D500×H770×SH430mm、コートランドダイニングテーブルW1800×D900×H670mm。©エスティック表参道ショールーム

日本の暮らしに合う 椅子とテーブル10選

日本の暮らしには、スペース的な制約がある。椅子とテーブルを選ぶ際にも、デザインや機能性のみならず、面積を考慮することはもちろん、移動しやすいことなども意識しておく。というわけで、編集部が選ぶ日本の暮らしにフィットした10アイテムをご紹介します。

Text＝印南敦史 INNAMI Atsushi



Photo＝Nacása & Partners



Living Room

「直線的な空間シルエットの中に直線的な表情を持つテクスチャーを重ねたりピンギに、光の持つ柔らかさが同居しています。テーブル上のペンダントライトのシルエットや位置、光の存在感も絶妙ですね」

Special

「ベッドの上の間接照明は、古材の梁を加工したもの。二つとない芸術的なラインは、人工的なものの明らかな違いを感じさせるほどの美しさ。これを人は感覚的に感じ取るのでしょう」

Bed Room

「床のカーペットや椅子の張地など、直線的な表現で構成された空間で、相対するのが浴槽の曲線の美しさ。このバランス感覚は見習いたいですね」

Bath Room

「寝室とも透明なガラスでつながっており、居室との調和と機能性を充分に表現したしつらえです。壁面に並べた秋保石の間にポイントとして同じ形のライトが仕込まれており、素材の美しさに現代的な技術要素を加えることで、空間を美しく昇華しています」

Amenity



写真上／パウダールームで使うブラシやシェービング、歯ブラシなどのアメニティは、専用の箱にすっきりと収納されており、機能美が光る。写真下／浴室には100%植物とミネラルから作られたRENのシャンプー類とともに、昔ながらのヘチマのスポンジを添えて。



都会の中心で感じる
自然の素朴さと豊かさ

その豊かな空間を、荒瀬さんは「素朴さの中にある豊かさ」と表現した。「かつて日本人にとつての生活の豊かさとは、四季の変化に寄り添い、愛することと生まれるものでした。しかし、今では技術の発展で、生活の豊かさの内容は多様化しています。ただ、人は贅沢を求める一方、本能的に自然の豊かさを肌で感じます。だからこそ、作り手は空間に『物質的でない、人が感じ取れる何か』を創造すべき。日本の粋をテーマに素材の魅力や存分に引き出したこの空間では、静けさの中に力強さを感じます」

例えば、窓。窓周りの丁寧なしつらえは、借景を額縁のように引き立て、より美しく感じさせる、と荒瀬さん。

「水周りの配置としつらえも注目です。スペースに限りがある都市部では、各空間の連携で豊かさを表現しますが、水回りは切り離されがち。だからこそ、ベッドルームとバスルーム、窓の外の緑が連携したこの空間は素晴らしいですね。また、随所に使われた自然素材に素朴さと豊さ、力強さと包容力を感じます。ここは本質を知ることができる空間ですね」



【ナビゲーター】
三井デザインテック
荒瀬仁之
ARASE Hitoshi

三井デザインテックにて、ホテルの空間プロデューサーとして活躍する。これまでに携わったホテルは日本各地に及び、デザインや設計にも造詣が深い。自らもデザインを手掛けながら、ホテルのインテリアを数多くプロデュースしている。

三井デザインテックがナビゲート
デザインから感じるホテルの魅力

滞在するゲストに、さまざまな体験をもたらすホテルのゲストルーム。今回は、「和」をテーマにしたゲストルームを取り上げ、その空間が持つ魅力を紐解いてみよう。

Photo＝熊谷義久 KUMAGAI Yoshihisa(WPP) Text＝吉田 溪 YOSHIDA Kei



ハイアット リージェンシー 東京
プレジデンシャルスイート



世界47カ国で展開するハイアット ホテルズ アンド リゾーツの日本初のホテルとして「ホテル センチュリーハイアット」の名で1980年に開業。2009年には、隣接する新宿中央公園の緑が最も身近に感じられる6～9階に、和とモダンが調和したエグゼクティブフロアが誕生。2007年、ハイアット リージェンシー 東京に改称した。

HYATT REGENCY TOKYO

東京都新宿区西新宿2-7-2 ☎03-3348-1234
<http://www.tokyo.regency.hyatt.jp/>
27万9580円～(一室二名料金、税サ込)
JR新宿駅西口から徒歩9分、都営地下鉄大江戸線都庁前駅から徒歩1分